

第6学年 総合的な学習の時間

指導者 友弘 敬之

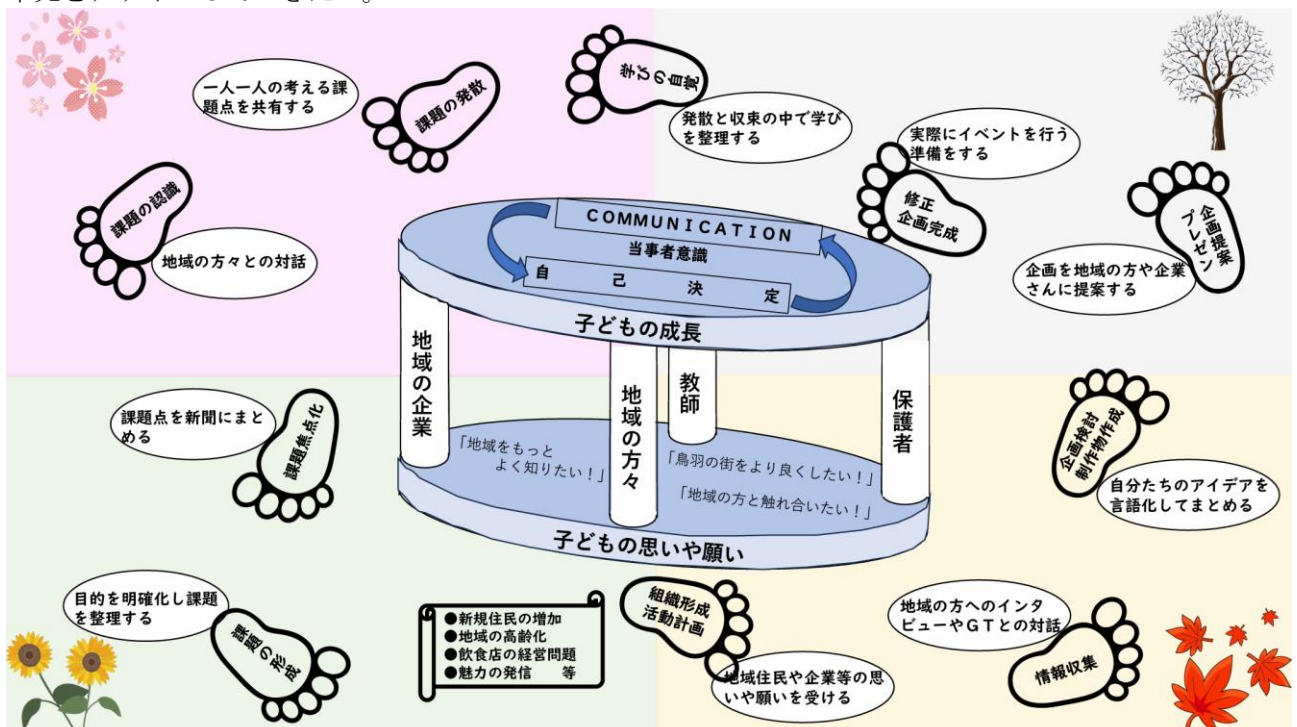
1. 日時 2025年3月6日(木) 第6校時
2. 単元名 鳥羽を知り 鳥羽を育む ～鳥羽の町 改革 プロジェクト～
3. 目標 鳥羽の町の課題点について探求を行っていくことで、今までは気づかなかった鳥羽の町の良さや課題を認識することができる。また、それらを改善・発展させていくための方法を地域の方々とは対話しながら検討していくことで、鳥羽の町に住む一市民として町づくりに取り組んでいくことができる。
4. 授業づくりについて

本学年の児童の実態を以下に示す(表1)。

(表1) 児童の実態

良さ	課題
・見通しがはっきりすると、思い切って活動に取り組めること。 ・外部の方への興味関心が高いこと。 ・課題に向かって本気で取り組めること。 ・鳥羽の町をよくしていきたいという強い思いがあること。	・コロナの影響で鳥羽の町を十分に散策できていないこと。 ・見通しを立てて学習に取り組むこと。 ・対話する関係性が固定的であること。 ・他者とコミュニケーションを図って課題を解決していくこと。

本学習は上記の児童の実態を基に、対話を通して鳥羽の町づくりに参画していけることを企図して下図の通りデザインした(図1)。下図の説明を通して学習のビジョンを説明する。周囲を取り巻く足あととは「子ども一人一人の歩」を示している。四季の移ろいとともに、子どもが自分の足で学びを形成していく学習を設定する。そのためには、子どもの思いや願いを大切に、「地域」「保護者」「企業」「教師」が一体となり、子どもの成長を支えていく必要がある。つまり、子どもが自由に歩き回れるために、大人が環境をデザインするというわけである。その中で、自他とのコミュニケーションがなされるだろう。自己とのコミュニケーションを図る機会として、自分の歩く道を自分で決定できる場を作っていきたい。また、他者とのコミュニケーションを図る機会として、地域住民や企業の方々、保護者を対象として交流しあう場を設けたい。そういった場での本気の対話が、コミュニケーション能力を育むと考えている。コミュニケーションと自己決定が繰り返される中で、「鳥羽の町は私たちが創る」という当事者意識を育んでいける単元をデザインしていきたい。



(図1) 学習のビジョン (授業者作成)

5 本時の流れ

(1) 目 標

プロジェクトごとに取り組んできた活動を交流しあうことで、他のチームの学びのプロセスを知ることができる。また、「できるようになったこと」を言語化し交流しあうことで、1年間の学びを自覚することができる。

(2) 本時の展開

子どもの活動	教師の働きかけ	評価の視点となる子どもの姿
1 本時の活動の見通しを立てる。	1年間の総合的な時間での学びの満足度について質問することで、取り組んできたことの価値を改めて共有できるようにする。 - 取り組んできたことの価値を高めるためにも「学んだことを自覚すること」の大切さについて語り、学習の見通しを伝える。	地域の方々にたくさんかかわっていただき、いろいろなことに挑戦できた。
1年間の総合的な学習の時間の学びを整理して言語化しよう。		
2 グループ内で活動を交流しあう。	- あらかじめ決めておいた9つのグループに分かれ、そのメンバーとお互いの学習の様子をプレゼンしあう。その際、キーワードとなる言葉を円卓状のメモ用紙（えんたくん）を用いて記述していくことで、後半の活動で学びを自覚していけるようにする。 - 全体への指示として以下の3点を伝える。 ① あらかじめ決めておいたA～Iまでの番号ごとにグループを形成する。 ② グループ内で約6分間それぞれのプレゼンを交流しあい、キーワードを付箋にメモをして残す。 ③ 各グループ一人だけ固定して移動し、同じプレゼンを3回行う。 - 鳥羽助け合いプロジェクトの児童をファシリテーターとして固定し、プレゼンの促しや質問を進めていけるようにする。その際、「Iさん」「Hさん」には担当がサポートする形で発言を補助できるようにする。 - 配布した付箋には「心に残ったほかのチームの活動や取り組み」を記述していくように促すことで、それぞれの学びの様子を可視化していけるようにする。	- 僕は、「インタビューしたこと」を通して、「積極的に話しかけること」ができるようになった。 - 企業の方に提案する中で、大人に対して警護で話しかけることが自然とできるようになった。 - キーワードは協力することだな。
3 記述した内容を整理してラベリングする。	- 最後のグループのメンバーと共に、その場にあるえんたくんに書かれた付箋のメモを確認しあい、必要に応じて線で結んだり並べ替えたりする。その中で、できるようになったことに名前を付けたり、強調したりして、チームごとに言語化できるようにする。 「活動や取り組みを通してついた力できるようになったこと」を観点に仲間分けし、それぞれの観点ごとに題名を付けるように促すことで、学びを言語化していけるようにする。	校長先生への提案と、企業の方への提案は同じ活動だな。
4 ペアのグループと交流する。	9つのグループを2グループごとにペアとして再構成し、ラベリングしたできるようになったことを交流する。	
5 1年間の学びを自分の言葉で言語化する。	- えんたくんに整理する活動を通して考えた1年間の学びを一人で言語化するように促すことで、考えを整理していけるようにする。 - 数名の児童に発言を促すことで、ほかの児童の考えを聞き、自分の考えを広げていけるようにする。	僕は、ゴミ箱アートを通して、最後まで頑張ることの大切さを学びました。